



連携事例10

R5.8 更新

市民活動サポート

「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」開設

～ 移住（いすみ）しませんか ～



「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」

■協働パートナーの種別

NPO

企業

行政

教育

地縁

■事業運営団体

NPO 法人いすみライフスタイル研究所

■協働パートナー

☆いすみ市

☆千葉県（夷隅地域振興事務所・農業事務所）

☆いすみパドルクラブ ☆房総野生生物研究所

☆いすみ市定住促進協議会、自然と共生する里づくり連絡協議会 その他 各種協議会

☆いすみ市商工会、観光協会 商店街組合他

☆その他、市内外市民活動団体 等

☆市内小中学校 千葉大学他、教育機関 等

■事業の手法

☆企画立案、共催、事業協力、支援等

事業概要

「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」を開設し、いすみ市及び近隣地域の情報提供や、各種相談対応などを行っています。また、いすみ市定住促進協議会に参画し、行政、市民のみなさんと連携・協働しながら移住定住促進活動に取り組んでいます。その他、空き家・空き店舗・空き施設の活用および相談対応、イベント企画・運営他、各種中間支援、視察研修受入れ等、行政・企業・大学・各種団体と連携・協働しながら、まちづくり活動に取り組んでいます。近年は、地球環境基金助成金（H28～R4）を活用し、地域活動団体・教育機関と連携・協働し、「いすみ地域における森里川海の一体型環境保全活動による里山里海の維持活動」等に取り組み、いすみ市の有機農業普及・学校給食の取り組み等の応援、夷隅川リバークリーン等の活動も継続しています。

協働までの経緯

平成17年の夷隅町・大原町・岬町合併によるいすみ市誕生を機に、市内の若手商工業者が中心となり「いすみ市を考える勉強会」を開催したことをきっかけに、平成20年NPO法人いすみライフスタイル研究所を設立しました。当時より、人口減少による進む様々な地域課題を見据え、移住定住促進と情報発信を柱に、まちづくり活動に取り組んでまいりました。同法人の設立の翌年、公民連携で設立された「いすみ市定住促進協議会」（以下「協議会」）にて、いなか暮らしを希望する方々への地域情報や行政の取組等の情報を提供する「いすみ暮らしサロン」を開設。その後、平日の運営と移住定住促進事業を市から委託され、平成26年まで運営を行ってきました。市の委託事業終了後、「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」を開設し、行政、市民連携し移住相談を行うとともに、各種情報提供、暮らしや市民活動のサポート、マーケット等の開催、環境保全活動等を行っております。早くから公民連携し取り組んできた移住定住促進の取り組みにより、宝島社発行『田舎暮らしの本』2023年2月号「2023年版 住みたい田舎ベストランキング」が発表され、いすみ市は首都圏エリア7年連続第1位、また、新たに全国人口3万人以上5万人未満のまちの区分で「総合部門」「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」の3部門で、全国第1位の評価をいただきました。

様々な活動を通じ、移住前から移住後、定住までの市民のみなさんとのつながりの場づくり、暮らしのサポートや各種活動を行うことで、市民、行政、各種団体・教育機関・企業の皆様との連携・協働も広がっています。

◎ 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター窓口開設 (通年)
- ②マーケットの開催「長者天神市」毎月1回・その他運営支援等
- ③夷隅川リパークリールン(毎月1回)等、環境保全活動
- ④いすみ市定住促進協議会・自然と共生する里づくり連絡協議会等、各種協議会参画
- ⑤会員内、勉強会・週例会・月例会等
- ⑥視察・研修等の受入、地域調査協力(申し出の都度)等

◎ 主な協働パートナーとの役割分担

- 【NPO】各種相談対応、各種中間支援、情報発信、イベント等企画・運営。その他、事業内容により対応
- 【行政】移住定住相談総合窓口、サテライト相談調整、協議会事務局運営、おためし居住の運営財政負担等
- ※その他
- 【市民・事業者・民間団体等】イベント参加・運営、活動連携等
- 【大学】学生地域活動、研究対応受入、活動紹介講師等
- 【その他、民間団体等】広域連携、情報共有、情報発信等

◎ 協働事業によって生まれた成果

○移住には転居に関わる不安や疑問のみならず、様々な届け出・手続が必要となります。行政とNPOのそれぞれの得意分野を活かし連携することで、多様な相談に柔軟に対応することができました。

○民間団体が相談の段階から移住に関わることで、移住後も交流を持つことができ、まちづくり活動への参加者増につながっています。

○宝島社発行『田舎暮らしの本』2023年2月号「2023年版 住みたい田舎ベストランキング」が発表され、いすみ市は「総合部門」「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」「シニア世代部門」全ての部門で首都圏エリア 第1位(7年連続)の評価をいただきました。また、新たに全国人口3万人以上5万人未満のまちの区分で「総合部門」「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」の3部門で、全国第1位の評価をいただきました。

○武蔵野美術大学デザイン・ラウンジといすみ市の産官学民協働プロジェクトに参画。28年度「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」を」実施しました。

○28年度から、地域環境基金助成金を活用し、地域活動団体・教育機関と連携・協働し、「森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動」に取り組みベストプラクティス事業に選ばれました。また、事業において、行政、自然と共生する里づくり連絡協議会、房総野生生物研究所、教育機関等と連携し「いすみの田んぼと里山と生物多様性」テキストを発行。市内小学校で実施している「いすみ教育ファーム」の教材としても活用されています。

♡ コラボのコツ!!

★個人と個人の連携にとどまらず、組織としての連携。

★週1回の定例会・月1回の月例会等の定期的な開催

★ネットツールを駆使した密な連絡

★日常的なつながりをいかす 等

・行政職員さんは担当が変わることがありますが、担当が変わってもしっかりと情報を共有し、経緯や方向性を確認しあうことを心がけ、日常的な連携や連絡を密にすることが大切です。

・NPO内では、定例会を開催し、各種情報共有や課題解決策の検討や意見の出し合いを行い、日常的な連絡には、メーリングリストやSNSなどネットツールを駆使することで、スムーズかつ密な連携体制をとっています。

・仕事上定例会への参加が難しい会員間の交流や異業種交流にもつながる月例会も開催し、地域情報共有や課題について考えるなど、新たなつながりやコラボのきっかけづくりにもつなげています。

・市民の皆さん・各種事業者、団体等日常的なつながりを大切にしています。

協働事例プロフィール

【活動開始年】平成20年(法人化:平成20年5月1日) 【活動のPR】<http://www.isumi-style.com/>

【この事業で活用した助成金・委託事業】

- ①いすみ市:まちづくり市民提案事業補助金(H21・23・24)
- ②ふるさと雇用再生特別基金(H22・23)
- ③いすみ市:いすみ田舎暮らし情報発信事業(委託事業)(H24・25・26)
- ④環境省:地域主導型再生可能エネルギー等事業化検討・事業化計画策定委託業務(H25・26・27)
- ⑤農林水産省「都市農村共生・対流総合対策交付金事業」(H26・27)
- ⑥地球環境基金助成金:「森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動」等(H28~R4)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】①総務省:「わがまちCMコンテスト2011」最優秀賞(H23)

②オーライ!ニッポン会議「房総いすみで美と健康と癒し体験ツアー」GT商品コンテスト優秀賞受賞(H23)

③NHK千葉放送局:放送記念日式典にて感謝状(H25) ④NHK:関東甲信越地域放送文化賞(H26)

※千葉日報・読売新聞・ちばテレビ・NHKなど活動紹介多数。

【問い合わせ先】担当者:高原和江 電話番号:0470-62-6730 メールアドレス:isumi-style@bz03.plala.or.jp